平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名　ケンコーマヨネーズ株式会社　　上場取引所　東
コード番号 2915　URL　http://www.kenkomayo.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 炭井 孝志
問合せ先責任者　(役職名) 常務取締役　(氏名) 村田 隆　TEL 03-5962-7777
四半期報告書提出予定日　平成26年2月12日
配当支払開始予定日　—
四半期決算補足説明資料作成の有無　:　無
四半期決算説明会開催の有無　:　無

(百万円未満切捨て)

1.　平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	44,022	5.1	2,112	△11.9	1,989	△12.9	1,139	△5.4
25年3月期第3四半期	41,872	5.6	2,398	37.1	2,284	32.8	1,204	37.1

(注)包括利益　26年3月期第3四半期　1,392百万円　(10.5%)　25年3月期第3四半期　1,259百万円　(42.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	80.19	—
25年3月期第3四半期	84.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	40,916	15,895	38.8
25年3月期	33,998	14,801	43.5

(参考)自己資本　26年3月期第3四半期　15,895百万円　25年3月期　14,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	11.00	21.00
26年3月期	—	10.00	—		
26年3月期(予想)				11.00	21.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　:　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,500	1.8	2,720	△2.1	2,580	0.2	1,420	0.8	99.92

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　:　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） ： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

（注）詳細は、添付資料5ページ「2．サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無

②①以外の会計方針の変更 ： 無

③ 会計上の見積りの変更 ： 無

④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期3Q	14,211,000 株	25年3月期	14,211,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	91 株	25年3月期	91 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期3Q	14,210,909 株	25年3月期3Q	14,210,909 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1．当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（１） 経営成績に関する説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（２） 財政状態に関する説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（３） 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（１） 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（２） 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（３） 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示・・・・・・・・・・・・・・・・5
３．四半期連結財務諸表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（１） 四半期連結貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（２） 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書・・・・・・・・・・・・・・・・8
（３） 四半期連結財務諸表に関する注記事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（継続企業の前提に関する注記） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ・・・・・・・・・・・・・・・・10
（セグメント情報等） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間（平成25年４月１日から平成25年12月31日）におけるわが国の経済は、欧州の景気停滞や新興国の成長ペース鈍化等の影響により輸出が伸び悩むなど、夏場には景気回復の勢いは足踏み状態にありましたが、企業収益の改善が進んだことや雇用環境に改善がみられたこと等、再び回復の勢いを取り戻しつつあります。また消費税率引き上げを前に、自動車など耐久消費財で駆け込み需要とみられる動きが徐々に出てきたことも今後の景気を押し上げる要因になると見込まれております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、前連結会計年度からスタートしました『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』の指針であります「市場演出型企業としてサラダ市場の演出とサラダ文化の確立」に基づいた５つの成長戦略を掲げており、次のとおり取り組んでおります。

（Ⅰ）グローバル企業となる

グローバル企業への成長に向けての取り組みとしては、まず中国につきましては、現地での経営管理体制の強化や当社が培ってきた提案型の販売スタイルの浸透などにより、売上拡大ペースが加速し、収益の改善が進んでおります。インドネシアにつきましては、イスラム教の戒律に従って製造したことの証明である「ハラール食品」の認証を取得し、平成25年10月より生産を開始いたしました。

将来的には、ハラール認証工場で生産した商品を日本を含めた各国へ輸出することも視野に入れて取り組んでまいります。

（Ⅱ）事業領域の拡大

世界各地の特徴あるソースをもとに「世界のソース」シリーズとして商品化するとともに、サラダの領域におきましても「世界のサラダ」シリーズを商品化し、「ケンコーサラダワールド」の展開を加速させ、商品ラインナップを充実させてまいりました。

また個食化という食スタイルの進行への対応として、平成25年９月より「サラダのプロがつくった」サラダシリーズとして、小型形態のロングライフサラダ５アイテムを発売いたしました。この商品はプロの方から認められた味を一般のご家庭にお届けすることをコンセプトとしており、導入店舗の拡大、新規導入を積極的に進めております。

（Ⅲ）「サラダ料理」の確立・情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践

毎年秋に開催しております当社の新商品・メニューの展示会である「ケンコーフェア」を東京・大阪で開催し、世界のサラダ・ソースを中心とした新商品を様々なメニューとして紹介することで「サラダ料理」の世界を発信しております。また東京海洋大学に「サラダサイエンス（ケンコーマヨネーズ）寄附講座」を開設しました。この寄附講座では、サラダに用いられる食材（野菜や魚介類等）の鮮度保持が難しいため、調味料との組み合わせによる品質変更など調味料の栄養機能、嗜好性、安全性の向上を目指しております。

（Ⅳ）サラダカフェブランドの推進・浸透

将来のビジョンとして、サラダカフェ30店舗構想を掲げ、新規出店及び既存店のリニューアルを進めるとともに、平成25年10月より朝日放送（ＡＢＣラジオ）にて当社冠番組『サラダトーク～お仕事カフェ』をスタートさせました。出演いただくゲストの方々にあったサラダ料理を用意し、ゲストとリスナーにサラダがある食卓を提案しております。

（Ⅴ）人材の育成、体制の強化

全社員を対象にした公募型研修制度を始め、様々な研修制度の導入や拡充を進めております。また従来より実施しておりましたトレーサビリティの更なる強化を目指して生産管理システムを導入し、併せて生産に係る業務の標準化・効率化も進めております。またＩＴインフラの強化・活用をテーマとして掲げており、ＩＴのセキュリティ強化やｅラーニング研修も進めております。

以上の５つの成長戦略に加えまして、平成24年９月18日に公表しました「新工場建設に関するお知らせ」のとおり、「静岡富士山工場」につきましては、平成26年４月稼働に向けた準備を着実に進めております。この新工場は、当社のタマゴ事業の領域を原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで拡げ、すべてに一貫した生産システムを構築するという戦略を実践するものであります。

当第３四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

①売上高

売上高につきましては、従来より進めてまいりました外食等の分野別チームについて、新たなチームを追加するなど業態の細分化・提案対象の拡大により、更に深掘りした分野別個別対策を立案・実行した成果が、売上高増加へ大きく寄与いたしました。業態別に提案しておりますサラダ料理レシピにつきましては、当社ウェブサイト上でも紹介を開始し、更なる売上増加に向けて取り組んでおります。またサラダカフェの活用によるグループ相乗効果を高める戦略を進めており、消費者と直接対話ができるショップ及びウェブサイトを通じて集めた消費者の声をメニュー提案に活かしてまいりました。

このメニュー提案力の強化によりお客様との共同試作におきましても、ますます好評をいただくことができ、お客様との関係を更に強固なものとすることができました。その結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、期初に策定した売上高計画を上回る進捗でありました。

②利益

利益につきましては、為替が円安に進行したことに加えて、穀物及び鶏卵相場の上昇等、原料価格の高騰が想定以上に進んだことに対しまして、企業努力のみでは吸収しきれない部分に関し、一部商品の価格改定を進めさせていただくとともに、売上高増加による利益増加や工場の稼働率アップ、また物流費をはじめとした費用削減等を実施いたしましたが、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益は前年同四半期対比で減益となりました。今後も一層の合理化を進め、収益体質の強化に取り組んでまいります。

当第３四半期連結累計期間における連結売上高は44,022百万円（前年同四半期比2,149百万円の増加、5.1％増）、連結営業利益は2,112百万円（前年同四半期比286百万円の減少、11.9％減）、連結経常利益は1,989百万円（前年同四半期比294百万円の減少、12.9％減）、連結四半期純利益は1,139百万円（前年同四半期比64百万円の減少、5.4％減）となりました。

当第３四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

＜サラダ･総菜類＞につきましては、オニオン、明太子、パンプキン、アボカド等の素材を活かした商品が外食、コンビニエンスストア向けの新規採用や伸長により増加しました。和惣菜ではきんぴら商品が好調に推移しました。

＜マヨネーズ・ドレッシング類＞につきましては、10kg、１kg形態のマヨネーズが製パン、外食、量販店、コンビニエンスストア等、様々な分野で採用され、また１Ｌ形態の低カロリードレッシングが外食向けを中心に新規採用されました。更に「世界のソース」シリーズはアイテム数を増やし好調に推移し、増収に寄与いたしました。

＜タマゴ加工品＞につきましては、サンドウィッチ用や焼き込みパン用のタマゴサラダ、またお弁当用の厚焼きタマゴやその他タマゴ加工品が製パン及びコンビニエンスストア向けで新規採用されました。茹で卵では、半熟タイプの商品が量販店、外食向けに伸長し大幅な増収となりました。

この結果、当第３四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は36,674百万円、セグメント利益は1,790百万円となりました。

総菜関連事業等

売上高につきましては、量販店向けの新規採用によりポテトサラダ、パスタサラダの主力商品等が増加したことにより増収となりました。利益につきましては、原材料の高騰影響があるものの、売上高の増加による稼働率アップや生産効率の改善、経費削減等のコストダウンの取り組みにより、増益となりました。

この結果、当第３四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は6,456百万円、セグメント利益は363百万円となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産の部）

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、40,916百万円（前連結会計年度比6,917百万円の増加、20.3％増）となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が1,443百万円、建設仮勘定が2,802百万円増加したこと等によるものであります。

（負債の部）

当第３四半期連結会計期間末における負債は、25,021百万円（前連結会計年度比5,823百万円の増加、30.3％増）となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が1,914百万円、長期借入金が1,072百万円増加したこと等によるものであります。

（純資産の部）

当第３四半期連結会計期間末における純資産は、15,895百万円（前連結会計年度比1,094百万円の増加、7.4％増）となりました。

（自己資本比率）

当第３四半期連結会計期間末における自己資本比率は38.8％（前連結会計年度比4.7ポイント減）となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年５月９日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

連結子会社における税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成25年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,919	5,993
受取手形及び売掛金	9,907	11,351
商品及び製品	1,306	1,197
仕掛品	19	12
原材料及び貯蔵品	733	1,000
繰延税金資産	393	342
その他	123	1,176
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	18,403	21,073
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,334	4,550
機械装置及び運搬具（純額）	2,727	3,297
土地	4,987	4,993
建設仮勘定	30	2,832
その他（純額）	274	251
有形固定資産合計	12,355	15,926
無形固定資産		
無形固定資産合計	384	361
投資その他の資産		
繰延税金資産	300	267
その他	2,599	3,325
貸倒引当金	△44	△38
投資その他の資産合計	2,855	3,554
固定資産合計	15,595	19,842
資産合計	33,998	40,916

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成25年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,042	9,956
1年内返済予定の長期借入金	995	1,072
未払法人税等	749	256
賞与引当金	381	184
その他の引当金	26	179
その他	4,053	6,679
流動負債合計	14,249	18,329
固定負債		
長期借入金	3,183	4,255
退職給付引当金	648	672
その他の引当金	163	190
その他	952	1,574
固定負債合計	4,948	6,692
負債合計	19,197	25,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	9,772	10,613
自己株式	△0	△0
株主資本合計	14,401	15,242
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	359	516
為替換算調整勘定	40	136
その他の包括利益累計額合計	400	652
純資産合計	14,801	15,895
負債純資産合計	33,998	40,916

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 (自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自 平成25年４月１日 至 平成25年12月31日)
売上高	41,872	44,022
売上原価	30,291	32,520
売上総利益	11,580	11,501
販売費及び一般管理費	9,182	9,389
営業利益	2,398	2,112
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	18	24
その他	64	88
営業外収益合計	82	115
営業外費用		
支払利息	48	56
持分法による投資損失	141	170
その他	6	10
営業外費用合計	196	237
経常利益	2,284	1,989
特別利益		
投資有価証券売却益	2	1
特別利益合計	2	1
特別損失		
固定資産除却損	4	12
減損損失	166	0
特別損失合計	171	13
税金等調整前四半期純利益	2,115	1,978
法人税、住民税及び事業税	919	794
法人税等調整額	△7	44
法人税等合計	911	838
少数株主損益調整前四半期純利益	1,204	1,139
四半期純利益	1,204	1,139

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 (自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自 平成25年４月１日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,204	1,139
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50	156
繰延ヘッジ損益	0	－
持分法適用会社に対する持分相当額	4	96
その他の包括利益合計	55	252
四半期包括利益	1,259	1,392
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,259	1,392
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	調味料・加工食品事業	総菜関連事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	35,407	5,635	41,042	830	41,872	－	41,872
セグメント間の内部売上高又は振替高	345	6,318	6,664	－	6,664	△6,664	－
計	35,752	11,953	47,706	830	48,536	△6,664	41,872
セグメント利益又は損失（△）	2,172	279	2,452	△168	2,283	0	2,284

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額０百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	調味料・加工食品事業	総菜関連事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	36,674	6,456	43,131	891	44,022	－	44,022
セグメント間の内部売上高又は振替高	379	6,601	6,980	－	6,980	△6,980	－
計	37,053	13,058	50,111	891	51,002	△6,980	44,022
セグメント利益又は損失（△）	1,790	363	2,154	△158	1,995	△5	1,989

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△５百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。